動物に関する日本とインドネシアのことわざの比較
（ジャカルタ国立大学における会話授業へのことわざの含意）

Fitriyani
Alumni Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang
Universitas Negeri Jakarta

Yuniarsih
Pengajar pada Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang
Universitas Negeri Jakarta
yuni2004jp@yahoo.co.jp

Abstract

Even though the meanings are similar, some mammals used in the proverb are different. In this research, I was surveyed in "Meikyo Kotowaza Seiku Tsukaikata Jiten" and "5555 Peribahasa Asli Indonesia", founded 115 Japanese proverbs on mammals and 364 Indonesian proverbs on mammals.
This research, I surveyed mammal proverbs and found that mammals appearing in the prover have images in their respective countries. For example, in Japan, the image of a cat is "smartly wise" and "foolish", but in Indonesia it is an image of "being bothered with a dog" and "scared".
Proverbs are thought to be practical through speech and greetings in Japanese classes, especially in conversation classes, so I hope that there will be continuing research on proverb teaching methods.

Keywords: Kotowaza, Peribahasa, Proverbs on Mammals

A. はじめに

徐小艶（2008:121）は、論文の中で「誰からともなく、いつからともなく、長い間に生活の知恵として、人々の口から口へ伝承されてきた気の利いた文句が諺である。諺は生活の中から生まれてきたものであり、民衆の知恵の宝庫、文化の遺産ともいえよう」と述べている。つまり、ことわざは古くから伝わるものであり、人生における人々の知恵や教訓を示している。

ことわざは字面以上に深い意味を持っている。日本では結婚式、入学式、入社式の挨拶などでことわざを使用される。話を長々する人の言葉は、メッセージが薄まるので、いい内容を含んでいても聞き手の心に響きにくい。長々する言葉を削り落

とし、濃縮される言葉であることわざを使ったほうがメッセージが強くなると考えられる。

日本にもインドネシアにも様々なことわざがある。国や地方によって文化や価値観が違うように、日本とインドネシアのことわざの形も異なる。ことわざの背景を知ることにより、その国の文化や人々の価値観も知ることができる。

本論では、哺乳動物に関する日本とインドネシアのことわざを比較する。その中には、日本とインドネシアの似ている意味のことわざも見つかるが、ことわざの中で使っている哺乳動物が違う。例としては、日本の「猿も木から落ちる」ということわざはインドネシアのことわざと意味が似ているようなものがある。それは、「Sepandai-pandai tupai melompat, sekali gagal terjatuh juga」である。日本語に直訳すると、「上手に飛び回るリスも失敗したら落ちる」ということである。その二つのことわざは「その道に長じた人でも、時には失敗することがある」ということを例えたもので、意味は似ているが、使っている哺乳動物は違う。日本では「玄人」は猿に例えられるが、インドネシアではリスである。それは、日本人とインドネシア人の哺乳動物に関する印象が違う証拠だと考えられる。

ジャカルタ国立大学の日本語学科の授業で使われている教科書に載っていることわざは少ない。文法と会話の授業で一年生が使っている『みんなの日本語 1』と『みんなの日本語 2』にはことわざが全く載っていない。一年生の日本語学習者は授業でことわざを勉強していないとも言える。また、一年生以降が授業で使われている『ニューアプローチ中級日本語』には 3 つ、『ニューアプローチ中上級日本語』には 7 つ、『初級からの日本語スピーチ初級からの日本語スピーチ』には 7 つのことわざが載っている。

大学で使われている教科書では紹介されたことわざが少ないため、日本語学習者にはことわざをあまり知られていないと考えられる。そのため、挨拶やスピーチ、会話にことわざが使われている場合、学習者は困難になる。したがって、日本語学習者に紹介するために、ことわざに関する参考になるものが必要だと思われる。この調査は日本語学習にも役に立つばかりか、哺乳動物のことわざを比較することにより、日本とインドネシアの文化の共通点と相違点が出てくるので、お互いに理解し合えるようになると考えられる。

本研究の目的は以下の通りである。

1. 『明鏡ことわざ成句使い方辞典』にある哺乳動物に関することわざはいくつあるかを検討する。
2. 『5555 Peribahasa Asli Indonesia』にある哺乳動物に関することわざは、いくつあるかを探る。
3. 『明鏡ことわざ成句使い方辞典』にある哺乳動物に関することわざは、『5555 Peribahasa Asli Indonesia』にあるインドネシアの哺乳動物のことわざと同じ意味を持つことわざは何かを明らかにする。
4. ことわざで使われている哺乳動物に関する日本人とインドネシア人のイメージについて考察する。

B. 研究方法

本論の研究法は、比較的研究と質的研究を用いた。調査の方法として、まず、『明鏡ことわざ成句使い方辞典』と『5555 Peribahasa Asli Indonesia』を読み、哺乳動物のことわざを調べて集めた。また、日本のことわざの由来を調べ、日本とインドネシアのことわざを比較し、「意味は似ているが、使っている哺乳動物は同じものや違うもののことわざ」を抜き出した。それから、 調べたことわざから哺乳動物のイメージを調査した。

ジャカルタ国立大学における会話授業へのことわざの含意を確認するため、ジャカルタ国立大学の日本語学科の 3 年生の 29 人の学習者にテストとアンケートを配った。その知識や、興味を知ることにより、これからの会話の授業でことわざの学習を実用できるかどうかを検討した。

C. 研究結果と分析

1. **ことわざの定義**

日本とインドネシアでことわざがどのように定義されているか、辞典や先行研究の記述をもとに確認する。

<u>日本のことわざの定義</u>

新村出（2008）によると「ことわざは古くから人々に言い習わされた言葉。教訓、風刺などの意を寓した短句や秀句である」と述べている。

石田博（1975）は、「諺は、遠い昔の人たちから語り伝えられ、書き止められた、いわば、人生経験の貴い宝庫であります。そこには時と所とを超越して光彩を失わない、人間の叡智と生活の指針とが説き示されて蔵されているのであります」と述べている。

<u>インドネシアのことわざの定義</u>

Kridalaksana（1993:169）は、”Peribahasa adalah kalimat atau penggalan kalimat yang bersifat turun temurun, digunakan untuk menguatkan maksud karangan, pemberi nasehat, pengajaran atau pedoman hidup”と述べている。

（ことわざは古くから伝わる文章で、教訓や人生の原理を伝える忠告者の言うことを強調する時に使われていた言い習わしである）

Ali（1995:755）は、”Peribahasa adalah kalimat ringkas yang berisi perbandingan, nasehat, prinsip hidup, dan tingkah laku” と述べている。

（比較、忠告、人生の原理、人間の行動が描かれている短句である）

上の定義を見て分かったことは、日本とインドネシアのことわざは、古くから人間に言い伝えられてきた。また、それは教訓や忠告を主に表しているという点で共通している。さらに、日本とインドネシア、どちらにおいても、神の教えがことわざに影響を与えているのではないかと考えられる。

2. ことわざの特徴

日本でもインドネシアでも、両国のことわざには特徴がある。それぞれの特徴を、以下のようにまとめてみた。

宮島達夫（1962）は、ことわざの内容を、表現形式との関係から大きく三つに分けている。まず、物事の形容ということである。例えば「鬼に金棒」、「猫に小判」などである。こういうように物事の様子からことわざをつくったものである。次に、一般的な真理を表すものである。例えば「良薬は口に苦し」、「親の心子知らず」などである。これは、単なる物事の様子だけでなく、何かの価値判断を述べている。最後は、物事の薦めである。例えば「急がば回れ」、「明日のことは明日案じよ」などである。内容的には、命令、勧誘、指示、要求、禁止などを意味している。

Soedjito（1992）は、「インドネシアのことわざはペパター（言い習わし）、ペルンパマアン（たとえ）、イディオム（慣用句）と、ペメオ（決まり文句）とい

うような四つに分かれている」と述べている。まず、ペパター（言い習わし）とは、教えや忠告を含めることわざである。その例としては、インドネシア語では、「Datang tampak muka, pergi tampak punggung」がある。日本語に訳すと「来たら顔が、行ったら背中が見える」となる。そのことわざの意味は、他人の家に訪問する時に、来ても帰っても礼儀正しくするという教えである。その他の例は、「Ikut hati mati, ikut rasa binasa」で、日本語に訳したら「心に従ったら死ぬ、気持ちに従ったら亡くなる」である。そのことわざの意味は、人間は欲望に従いすぎたらだめになるという意味である。

それから、ペルンパマアン（たとえ）とは、他のものや事例に比較することわざである。このペルンパマアンの特徴は、seperti, bagai, laksana, bak, seumpama, umpama（まるで…ようだ）といった言葉を使っていることである。例えば、「**Seperti** kejatuhan bulan」、日本語に訳すと、「まるで月を落とされたようだ」になる。このことわざの意味は、予想外の利益をもらうということである。その他の例は、「**Bagai** air di daun talas」、日本語に訳すと、「まるで里芋の葉の上にある水のようだ」である。このことわざは、優柔不断の性格のたとえである。

そして、イディオム（慣用句）とは、いくつかの言葉から構成され、全体の意味が個々の言葉の元来の意味から決まらないような慣用的な表現である。イディオムは、いくつかの要素から構成さる。それは色、植物、数、動物、自然、体の一部と、感覚である。イディオム（慣用句）の例は、色から構成されたイディオム、「Darah biru （青い血）」である。その言葉の意味は、貴族という意味である。その他の例は、感覚から構成されたイディオム、「Pengalaman pahit （苦い経験）」とは悲しい出来事や経験だという意味である。

最後に、ペメオ（座右の銘）とは、行動の目標や指針とする標語（モットー）になることわざである。例えば、「Harimau mati meninggalkan belang, gajah mati meninggalkan gading」、日本語に訳すと「虎は死して皮を留め象は死して象牙を残す」である。そのことわざの意味は、虎は死んだあともその皮が珍重され、偉業を成した人は死後もその名を語り継がれるということである。その他の例は、「Sedikit demi sedikit lama-lama menjadi bukit」、日本語では「少しずつでも、丘になる」である。その意味は、お金や知識を少しずつでも集めると、将来多くなるということである。

それぞれのことわざの特徴を見て、分かったことは、インドネシアで idiom（慣用句）はことわざに含まれているが、日本では含まれていない。その理由としては、高木和彦（1978）は、慣用句は諺のように教訓や格言として機能するものではなく、あくまで日常の行動や物事の状態などを面白おかしく表現したりしたものであると述べている。

3. 哺乳動物に関することわざの分析

『明鏡ことわざ成句使い方辞典』と『5555 Peribahasa Asli Indonesia』を調査した結果、哺乳動物に関する日本のことわざを 115、哺乳動物に関するインドネシアのことわざを 364 発見した。その結果を、以下の表にまとめてみた。

表 1　ことわざに出てきた哺乳動物の数

哺乳動物のことわざ（日本とインドネシア）	
a. 猫 (12) b. 犬 (14) c. 虎 (11) d. 猿 (6) e. 馬 (31) f. 豚 (2) g. 牛 (14) h. 兎 (4) i. 獅子 (3) j. 鼠 (5) k. 麒麟 (1) l. 鼬 (3) m. 鹿(4) n. 羊 (4) o. 狼(1)	a. 猫/ Kucing (43) b. 犬/ Anjing (57) c. 虎/Harimau, macan (52) d. 猿/Monyet, kera, beruk (22) e. 馬/Kuda (22) f. 豚 /Babi (11) g. 牛/Sapi, lembu (13) h. 兎/Kelinci (7) i. 獅子/Singa (7) j. 鼠/Tikus (16) k. 麒麟/Jerapah (1) l. 鼬/Musang (8) m. 鹿/Rusa, kancil (12) n. 水牛/Kerbau (61) o. 山羊/Kambing (23) p. リス/Tupai (2) q. 狼/Serigala (7)

また、日本の『明鏡ことわざ成句使い方辞典』とインドネシアのことわざ集を調査した結果、「意味は似ているが、使っている哺乳動物は同じものや違うもののことわざ」を 14 発見した。その結果を、以下の表にまとめた。

表 2　ことわざにおける哺乳動物の使用

	日本のことわざ	インドネシアのことわざ	意味
意味は似ていて、使っている哺乳動物は同じもののことわざ	喪家の**狗**	Bagai anjing gonggong bangkai 死体に吠えている**犬**のようだ	飼い主に捨てられた犬。また、そのように見る影もなくやつれて元気のない人
	虎の尾を踏む	Bagai membangunkan macan tidur **虎**を起こせるようだ	きわめて危険なことをするたとえ
	虎は死して皮を留め人は死して名を残す	Harimu mati meninggalkan belang, gajah mati meninggalkan gading, manusia mati meninggalkan nama **虎**は死して皮を留め、**像**は死して牙を留め、人は死して良い名を残す	虎は死んだあともその皮が珍重され、偉業を成した人は死後もその名を語り継がれる
意味は似ているが、使っている哺乳動物は違うもののことわざ	**猫**に小判 **豚**に真珠	Laksana kera mendapat bunga 花をもらう**猿**のようだ Bagai kera diberi kaca 鏡をもらう**猿**のようだ	価値の分からない人に貴重なものを与えて無駄であることのたとえ
	犬猿の仲 **犬**と**猿**	Seperti anjing dan kucing **犬**と**猫**のようだ	きわめて仲の悪いことのたとえ
	前門の**虎**後門の**狼**	Terlepas dari mulut singa, masuk ke mulut serigala **獅子**の口から逃げられ、**狼**の口に入った	一つの災いを逃げれても、またもう一つの災いが襲ってくることのたとえ
	猿も木から落ちる	Sepandai-pandai tupai melompat, sekali gagal terjatuh juga 上手に飛び回る**リス**も失敗したら落ちる	その道に長じた人でも、時には失敗することがあるというたとえ
	尻**馬**に乗る	Seperti lalat di ekor kerbau **水牛**の尻尾に乗っかっている蝿のようだ	考えもなく他人の言動に同調し、軽はずみな行動をする
	馬脚をあらわす	Busuk kerbau, jatuh berdebuk 腐った**水牛**の死体を落とす	隠していた生体や悪事があらわになる
	胡馬北風に嘶く	Walau kijang dirantai dengan rantai emas, kalau lepas lari juga ia ke rimba 金の鎖で縛られた**キリン**は、鎖が取れたら森に逃げ出す	故郷の忘れがたいことのったとえ
	馬齢を重ねる	Mabuk karena beruk berayun ゆらゆら揺れている**猿**に酔う	これといったこともしないで無駄に年を重ね、ただ年をとる
	鼠捕る**猫**は	Seperti harimau	優れた才能のある人

	爪を隠す	menyembunyikan kuku **虎**は爪を隠すようだ	は、むやみにそれをひけらかさないもの
	誤牛月に喘ぐ	Seperti kucing disiram air 水にかけられた**猫**のようだ	極端に恐れること
	袋の**鼠**	Bagai kambing dalam biduk ヨットの中の**山羊**のようだ	追い詰められて逃げ場のないことのたとえ

これを見ると、いくつかの日本のことわざは意味が似ているので、インドネシアのことわざに言い換えることができるということが分かった。ここではその中からいくつか興味深いものを取り上げてみる。日本の「犬猿の仲」とは、インドネシアのことわざでいうと「犬と猫のようだ」といえる。日本では、犬と猿が仲悪い理由として、いくつか説があるといわれている。中国から伝わってきた「西遊記」という物語から、孫悟空は犬に懲らしめられたので、犬と猿は仲が悪いというイメージがある。インドネシアでは、ノアの箱舟という物語の中で、預言者 Nuh（ノア）が地球が大災害で海に覆われた時に、箱舟に人間と動物を逃がした。その時に、舟の人数を増やさないために、男女の関係を持つことを禁止していたが、犬がその掟を破った。それを偶然見た猫が預言者 Nuh（ノア）に告げ口をしたことから、犬が注意され、そこから犬と猫は仲が悪いというイメージができたとされている。

また、本論では、動物のイメージを比較するために、意味が似ている日本とインドネシアのことわざで使われている動物を取り上げてみた。『明鏡ことわざ成句使い方辞典』と『5555 Peribahasa Asli Indonesia』を通して、動物のことわざを比較した結果、意味が似ているが、使っている動物が同じだったり違ったりするもののことわざの中では 13 種類の動物が出てきた。その結果を、以下の表にまとめた。

表 3　意味が似ていることわざに出てきた哺乳動物の数

ことわざ	哺乳動物
日本	犬、猫、虎、豚、猿、狼、馬、鼠、牛
インドネシア	犬、猫、猿、狼、虎、獅子、リス、水牛、鹿、山羊

この中から、両国共にことわざで使われている哺乳動物のイメージをそれぞれ分析してみる。ここではその中から一つ興味深い哺乳動物（猫）を取り上げてみる。

D. 猫のイメージ

昔から猫は、日本でよく飼われている動物である。奈良時代に中国から入ってきた文化であると言われている。日本では、猫には幸運を象徴する動物というイメージがある。例えば、日本の文化で「招き猫」という猫像があり、それは中国からの影響で、商売で猫は幸運を招くという考えからである。本論で比較したことわざにおける猫のイメージを以下の表にまとめてみた。

表 4 日本とインドネシアでの猫のイメージ

猫のイメージ	
日本	インドネシア
ずる賢い： • 鼠捕る猫は爪を隠す 意味：優れた才能のある人は、むやみにそれをひけらかさないもの。 **愚か**： • 猫に小判 意味：価値の分からない人に貴重なものをえて無駄であること。	**犬と仲悪い**： • **犬**と**猫**のようだ （Seperti anjing dan kucing） 意味：きわめて仲の悪いことのたとえ。 **怖がる**： • 水にかけられた猫のようだ（Seperti kucing disiram air） • 猫に竹ほうきのようだ （Seperti kucing dibawakan lidi） 意味：恐ろしすぎること。

意味が似ていることわざに出てきた猫のことわざが 5 つしかないので、一概に言うことができないが、一般の猫のイメージがことわざに必ずしも出てくるわけではない。それは「ずる賢い」、「愚か」、「犬と仲悪い」と、「怖がる」というイメージである。例えば、「猫に竹ほうき」とは恐ろしすぎて、慌しく逃げるという様子を指したもので、意味は「恐ろしすぎる」ということである。

4. 会話授業へのことわざの含意

ジャカルタ国立大学における会話授業へのことわざの含意を確認するために、29 人の学習者にテストとアンケートを配った。日本語学習者のことわざに関する知識のデータを得るために、2014 年 4 月 4 日、7 日と、8 日にジャカルタ国立大学の日本語学科の 2011/2012 年度の 3 年生に対してテストとアンケートを行った。その結果は、以下にまとめた。

まず、ことわざに関するテストを受けた後の点数は、以下のようである。

表日 2 ことわざに関するテストの点

対象者	点数		点数合計
	問題 I	問題 II	
1	5	4	9
2	4	3	7
3	3	4	7
4	4	2	6
5	3	3	6
6	5	4	9
7	3	3	6
8	5	5	10
9	4	2	6
10	5	3	8
11	5	3	8
12	2	3	5
13	2	5	7
14	4	4	8
15	5	3	8
16	3	3	6
17	4	5	9
18	5	3	8
19	4	5	9
20	3	3	6
21	0	2	2
22	3	4	7
23	3	3	6
24	4	1	5
25	5	2	7
26	5	3	8
27	5	3	8

28	3	3	6
29	5	1	6
合計	111	88	199
平均点	3.83	3.03	6.86

その表から見ると、一番高い点数は 10 点、一番低い点数は 2 点である。研究の結果として、平均点は 6.86 点ということが分かった。秀・優・良・可・不可の成績表示を付けると、6.86 点は「可」に入っている。29 人から 18 人の学習者の点数は平均点以上であるが、11 人の学習者の点数はまだ平均点以下だということが分かった。その平均点から見ると、学習者のことわざに関する知識がまだ少ないといえる。

また、学習者に配った会話とことわざに関するアンケートの結果は、以下の通りである。

表日 3 アンケート結果

質問	回答	回答数	割合 (%)
1. 会話を学ぶのが好き。	はい	22	75.86
	いいえ	7	24.14
2. ことわざを学ぶのに興味がある。	はい	20	68.97
	いいえ	9	31.03
3. 会話でことわざを使うのに興味がある。	はい	13	44.83
	いいえ	16	55.17
4. 会話の授業が難しいと思う。	はい	20	68.97
	いいえ	9	31.03
5. 日本語の勉強にことわざが役に立つ。	はい	22	75.86
	いいえ	7	24.14
6. スピーチや挨拶でことわざを使う人は上品で、頭良さそうにみえる。	はい	27	93.10
	いいえ	2	6.90
7. ことわざは会話の授業に適している。	はい	23	79.31
	いいえ	6	20.69
8. 前回、ことわざを勉強したことある。	はい	21	72.41
	いいえ	8	27.59
9. 日常会話でことわざを使ったことある。	はい	1	3.45
	いいえ	28	96.55
10. 日本語のスピーチや挨拶でことわざを使ったことある。	はい	3	10.34
	いいえ	26	89.66
11. 会話でことわざを使っている時に、難しく感じない。	はい	1	3.45
	いいえ	28	96.55
12. 会話でことわざが使わ	はい	4	13.80

れている場合、内容を理解するのに難しく感じない。	いいえ	25	86.20
13. ことわざを使っている時に、そのことわざの意味が必ず分かっている。	はい	8	27.59
	いいえ	21	72.41
14. 日本のことわざをインドネシアのことわざに言い換えることができる。	はい	11	37.93
	いいえ	18	62.07
15. インドネシアのことわざを日本のことわざに言い換えることができる。	はい	6	20.69
	いいえ	23	79.31
16. 会話授業を学んでから、さらに日本語で話せるようになる。	はい	19	65.52
	いいえ	10	34.48
17. ことわざを勉強することで、日本語の文化をさらに知るようになる。	はい	24	82.76
	いいえ	5	17.24
18. 相手を傷つけそうなことを言いたい時に、ことわざを使うことで柔らかく伝えることができる。	はい	26	89.66
	いいえ	3	10.34
19. ことわざを学ぶことで、日本語の知識をさらに増えるようになる。	はい	28	96.55
	いいえ	1	3.45

上の表から見ると、会話でことわざを使うのに興味がある学習者(44.83%)より、興味がない学習者(55.17%)のほうが多い。ことわざが難しく、日常会話で使ったことないと答えた学習者(96.55%)も多い。その結果を見て考えたのは、ことわざは日本語の授業で使われている教科書にあまり載っていないので、日本語の学習者にことわざは馴染みがない。ことわざに慣れていないので、ことわざが難しい。また、難しいので、会話で使ったことない学習者も多いと考えられる。それに対して、会話とことわざを学ぶのに興味があり(75.86%と 68.97%)、ことわざは会話の授業に適していると答えた人(79.31%)が半分以上である。

E. おわりに

日本とインドネシアのことわざに使われている哺乳動物に関する印象は様々に違う。意味が似ていても、ことわざに使われている哺乳動物が違うものもある。本研究では、筆者は『明鏡ことわざ成句使い方辞典』と『5555 Peribahasa Asli Indonesia』

を調査し、哺乳動物に関する日本のことわざを 115、哺乳動物に関するインドネシアのことわざを 364 発見した。

また、「意味は似ているが、使っている哺乳動物は同じものや違うもののことわざ」を 14 発見した。その中に、「意味は似ていて、使っている哺乳動物は同じもののことわざ」を 3 つ、「意味は似ているが、使っている哺乳動物は違うもののことわざ」を 11 発見した。例えば、「鼠捕る**猫**は爪を隠す」はインドネシア語で「**虎**は爪を隠すようだ」という意味が似ているようなことわざがある。

今回、哺乳動物のことわざを調査してみ、ことわざに出てくる哺乳動物は、それぞれの国にイメージがあるということが分かった。例えば、日本では猫のイメージは、「ずる賢い」と、「愚か」であるが、インドネシアでは「犬と仲悪い」と、「怖がる」というイメージである。

そして、ジャカルタ国立大学における会話授業にことわざの含意があるということが分かった。ジャカルタ国立大学の日本語学科の 3 年生の 29 人の学習者に配ったテストとアンケートを確認した。その結果は、

1. ことわざに関する問題をテストした上で、平均点 は 6.86 点である。「可」のランクで、学習者のことわざに関する知識がまだ少ないといえる。ことわざに関する知識が少ないため、ことわざに関わるテストや会話を理解するのは難しいと考えられる。
2. 会話とことわざを学ぶのに興味がある学習者(75.86%と 68.97%) が多い。会話の授業にことわざが適している (79.31%) と思う学生も多い。それに対して、会話でことわざを使うのに興味がある学習者(44.83%)より、興味がない学習者(55.17%)のほうが多い。それに、会話でことわざを使ったことない学習者(96.55%と 89.66%)も多い。

その結果を見て、学習者は会話におけることわざを使うのに興味を持つように意見としては、教師は授業でことわざをもっと詳しく説明し、学習者は会話の授業で教師か日本人にことわざを使って会話を練習し、それから、ことわざを覚えるために教科書ばかりか漫画や小説で見つけたことわざをメモしたほうが良いと考えられる。

本研究のその他の目標としては、日本のことわざをインドネシア語に訳す時に、似ている意味のことわざが分かった場合、それを用いて言い換えることができるのではないかと考えている。日本とインドネシアのことわざで、意味が似ているが使

われている動物が違うことわざはいくつもある。例えば、「犬猿の仲」は、インドネシア語に「犬と猫のようだ」などである。このことを利用して、翻訳を行えば、インドネシアの日本語学習者の知識と理解を高めることに大きく貢献すると考えられる。例えば、ことわざが出てくる小説を日本語からインドネシア語に訳す時、このことわざを言い換えるということができれば、読者の理解をより深めることに利用することもできるのであろうか。このことについては、まだことわざの数は少ないので、次の調査の課題としたい。

ことわざは古くから伝わるもの、それぞれの国で違った特徴を持っている。しかし、それはその国の文化を表すだけでなく、人生における人々の知恵や教訓を示している点で共通している。これらのことわざを学ぶことで、両国の文化の違いを知るとともに、自分自身の人生にも応用していけるのであろうか。ことわざというものは、国の言語における文化財だと思うので、なくさないように大切にする必要がある。

最後に、ことわざに関する資料が極めて乏しいので、「意味は似ているが、使っている哺乳動物は同じものや、違うもののことわざ」の数はあまり発見することができなかった。次回の課題としては、これらの動物のことわざをさらに多く集め、調査したいと思う。また、ことわざは日本語の授業、特に会話の授業にスピーチや挨拶を通して実用できると考えられるので、ことわざの良い教授法に対する継続研究があるように希望する。

F. 参考文献

石田博（1975）『事故成語ことわざ辞典』雄山閣出版

小柳昇（2006）『*New Approach Chuukyuu Nihongo*』日本語研究者

_____（2007）『*New Approach Chuujyoukyuu Nihongo*』Asia Gobun Press

加藤博康（2007）『明鏡　ことわざ成句使い方辞典』大修館書店

高木和彦（1978）『慣用句のために教育国語』麦書房

新村出（2008）『広辞苑六編』岩波書店

小学教育研究会（2008）『小学要点・慣用句ことわざすいすい暗記』受験研究者

Surie Network（2006）『みんなの日本語 I 』IMAF Press

Surie Network（2006）『みんなの日本語 II』IMAF Press

日本交流基金関西国際センター（2006）『初級からの日本語スピーチ』凡人者

平岩弓枝（2007）『西遊記』毎日新聞社

宮島発達夫（1962）「ことわざの言語学」『言語生活』1 月号：p.38.

朴庾卿（2010）「「猫」に関する日韓ことわざの比較研究」『法政大学大学院紀要』30 号：p.190–p.202.

徐小艶（2008）「「食」にかかわることわざの日中比較」『福井工業大学研究紀要』38 号：p.121–p.126.

Arikunto, Suharsimi.2009. *Dasar – Dasar Evaluasi Pendidikan.* Jakarta: Bumi Aksara.

_____1993. *Prosedur Penelitian: Suatu Pendekatan Praktek Edisi Kesembilan.* Jakarta: Rineka Cipta.

Azwar, Saifuddin. 1997. *Reliabilitas dan Validitas Edisi Ketiga.* Yogyakarta: Pustaka Pelajar.

Ali, Lukman. 1995. *Kamus Besar Bahasa Indonesia.* Jakarta: Balai Pustaka.

Chaer, Abdul. 1995. *Sosiolinguistik Perkenalan Awal.* Jakarta: Rineka Cipta.

Dharmayanty, Nike. *1999*. *Analisis Peribahasa Jepang*. Bandung: IKIP Bandung.

Djamaris, Edwar. 2002. *Pengantar Sastra Rakyat Minang Kabau.* Jakarta: Yayasan Obor Indonesia.

Emzir. *2008*. *Metodologi Penelitian Pendidikan Kuantitatif dan Kualitatif*. Jakarta: Raja Grafindo Persada.

Haditono, Siti Rahayu. 1998. *Psikologi Perkembangan: Pengantar dalam Berbagai Bagiannya.* Yogyakarta: Gajah Mada University Press.

Halim, Abdul. 2002. *Kisah Penciptaan dan Tokoh – Tokoh Sepanjang Zaman Cetakan I Halaman 108 - 133*. Bandung: Pustaka Hidayah.

Iskandar, Rahmawati. 2006. *Skripsi: Analisis Peribahasa Jepang dan Indonesia yang Mengandung Kata "Kera" (Saru)*. Bandung: Universitas Pendidikan Indonesia.

Kokasih, E. 2004. *Bimbingan Pemantapan Bahasa Indonesia Cetakan ke 4*. Bandung: Yrama Widya.

Kridalaksana, Harimurti. *1993*. *Kamus Linguistik*. Jakarta: Gramedia Pustaka Utama.

Komunitas Cerdas. 2010. *5555 Peribahasa Asli Indonesia.* Jakarta: Cyan Publiser.

Nurgiyantoro, Burhan. 2007. *Teori Pengkajian Fiksi*. Yogyakarta: Gajah Mada University Press.

Rafli, Zainal, dkk. 2007. *Pedoman Akademik 2007/2008*. Jakarta: Universitas Negeri Jakarta.

Sibarani, Robert. 1992. *Hakikat Bahasa.* Bandung: Citra Aditya Bakti.

Slameto. 2010. *Belajar dan Faktor – Faktor yang Mempengaruhi.* Jakarta: Rineka Cipta.

Soedjito. 1992. *Kosakata Bahasa Indonesia*. Jakarta: Gramedia Pustaka Utama.

Sukmadinata, Nana Syaodih. 2011. *Metode Penelitian Pendidikan.* Bandung: Rosda.

Sutedi, Dedi. 2005. *Pengantar Penelitian Pendidikan*. Bandung: Humaniora.

Tarigan, Henry Guntur. 2009. *Pengajaran Analisis Kontrastif Bahasa*. Bandung: ANGKASA.

Widodo, Supriyono. 2004. *Psikologi Belajar.* Jakarta: Rineka Cipta.

Widjono. 2007. *Bahasa Indonesia.* Jakarta: Grasindo.